

令和8年度(2026年度)  
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題  
日本音楽研究専攻 専門語学 現代文

下の文章は、柴田南雄著『日本の音』(青土社)におさめられた「笙と箏」の全文で、8つの段落((1)~(8))から構成されています。よく読んであとの問いに答えてください。(掲載にあたって原文を一部改変しています。)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

問1 傍線部 (①～⑤) には、「これ」「それ」などの指示語が含まれています。それぞれの傍線部が文中で何を指しているか、答えてください。

問2 段落 (2) に「苦笑を禁じ得なかった」とありますが、「苦笑を禁じ得ない」の意味を説明した上で、なぜ著者は「苦笑を禁じ得なかった」のか、理由を説明してください。

問3 段落 (6) に「笙と筆箒がこのような対照的な地位にあった」とあります。著者自身は、両者の対照をどのように説明していますか。段落 (4) と段落 (5) をよく読んで、要約してください。

問4 段落(7)の点線部「擦れ」「擦れる」はどのような現象を指していると考えられますか。

説明してください。また著者は、雅楽演奏の「擦れ」「擦れる」にどのような意味、あるいは価値を見出そうとしているのでしょうか。

問5 段落(8)に「面白いことだ」とありますが、著者は、何を、どのように面白いと言っていますか。説明してください。加えて、著者の意見に対する、解答者自身の考えを述べてください。

令和 8 年度 (2026 年度)  
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題  
日本音楽研究専攻 専門科目  
筆記試験 B (小論文)

問

日本音楽あるいは世界のどこかの国の音楽を  
例にあげて、「交通・通信の発達と音楽文化」  
について自由に論じなさい。